

## 令和2年度 第2回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和2年(2020年)10月6日(火) 13:45~15:45

場所：熊本市立託麻東小学校

### ○議事録

- 1 開会
- 2 授業参観
- 3 懇談会

古賀座長	<p>本日の懇談会は、以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) モデル校の取組について</li> <li>(2) 指導課から説明</li> <li>(3) 質疑</li> </ol> <p>まず、託麻東小学校・二岡中学校からモデル校の取組について説明をお願いします。</p>
上元教諭 (託麻東小学校)	<p>託麻東小学校の取組について説明する。</p> <p>小学校での取組①ー託東タイムの継続と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 継続について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎週水曜日 8:30~8:40 全クラス一斉</li> <li>・ 月ごとにグループアプローチのエクササイズを行っている。</li> <li>・ 今年で4年目になった。(平成29年度から)</li> </ul> </li> <li>● 発展について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成的グループエンカウンターの拡充。昨年度までは4年生から行っていたが、今年度から3年生からとしている。1・2年生はSSTが中心。</li> <li>・ 定期的な担任チェンジの取組。学年の中で担任を交替している。いろいろな子どもたちと関わることができる。</li> <li>・ Q-U (楽しい学校生活を送るためのアンケート) アンケートの効果的な活用。今年度から4年生以上に行っている。1学期に1回目を行い、その後夏休みに教育相談を行った。保護者へ話す材料とした。2回目は3学期に行い変容を見ていきたい。</li> <li>・ 託東タイムを基盤とする授業改善。3年目までは子どもたちの人間関係をしっかりさせようとして取り組んできた。4年目になり、子どもたちが落ち着いてきた。今度は学力に力を入れていく。熊本市の令和版学びわくわく授業づくりを基に、問い・振り返り・対話を研究している。</li> </ul> </li> <li>● 小中合同校内研修の実施 休校中に実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループアプローチ理論研修</li> <li>・ 小中職員でのグループアプローチ実践研修</li> <li>・ 曾山和彦先生(名城大学教職センター教授)を講師として呼びして合同校内研修</li> </ul> </li> </ul> <p>小学校での取組②ー小学校高学年での一部教科担任制の導入 2学期(9月)から行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科担任制の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5・6年各5クラス担任5人 理科専科、音楽専科、外国語専科</li> <li>・ 各担任が2教科ほど担当</li> <li>・ 道徳は担任チェンジ</li> </ul> </li> <li>● 教科担任制を導入して〔教師の声〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が担当する教科に集中できるようになった。</li> <li>・ 放課後、担任外の子どものことで、学年の先生方と話す機会が増えた。学年のチームで子どもたちを育てていこうという意識が高まっている。</li> </ul> </li> </ul>

垣田教諭  
(二岡中学校)

- ・ 他のクラスの子どもの良さを、担任に伝えている。
- ・ 教材研究を深めることができている。
- ・ 時間割の調整が難しい。
- ・ 働き方改革の面から、負担が減った部分と増えた部分がある。
- 教科担任制を導入して〔子どもの声〕
- ・ いろいろな先生と関わることができてうれしい。
- ・ いろいろな教え方があって、勉強の刺激になる。
- ・ 先生によって進め方が違うので、始めは慣れなかったけど、先生の良いところを知ることができて慣れてきた。中学校に入っても驚かない。
- ・ 担任の先生と話す機会が少なくなってきた。

二岡中学校では今年度から、二岡タイムと二岡トークを実践している。小中連携共通実践事項として、生徒と教師の関わり体験の場を意図的かつ日常的に用意している。新しいことを導入するということで、負担感の少ない関わり体験の場を始めることにした。自尊感情とソーシャルスキル、この二つを二岡タイムで教師がファシリテーターとして向上させようとしている。週に1回10分間実践して、「自分はここにいていいんだ」「もっと頑張りたい」であったり、「相手の目を見て話せた」「二岡トークで伝え合えて楽しい」といったりするような部分で、大きな効果を実感している。

研究主題は、「認め合い高め合い意欲的に学ぶ生徒の育成 自尊感情とソーシャルスキルの向上を通して」として設定している。

6月のNRTでは厳しい結果が出たが、曾山和彦先生に子どもたちの授業の対応を見ていただいたときに、曾山先生は「この状態の授業の受け方であればもっと伸びるはず」とおっしゃった。これからは私たちの腕の見せ所である。自尊感情とソーシャルスキルの向上が子どもたちに影響していることがわかった。

二岡タイムは、託麻東小学校と同じように毎週水曜日の朝から行っているが、9月はテストや連休で2週間空いてしまった。2週間空いただけで子どもたちは次のトークの時にスムーズにいかなかった部分があったので、継続的にやっていなければならないということがわかった。よほどのことがない限り二岡タイムを行事等で削るべきではないという感想を持った。

休校中の5月にタブレット（Zoom）で健康観察をしたときに、クラス内で班分けをしてミーティングを行った。以下感想。

- ・ 友達と仲良く話すことができ楽しかったです。久しぶりに話す人もいたけど、緊張せずに話せました。
- ・ 恥ずかしかったです。だから全然話せませんでした。学校が再開したらいろいろな人と話したいです。
- ・ 司会が決まっていなくても、〇〇さんが主に最初からグループをまとめてくれてとても話しやすかったし、グループになごめた気がした。
- ・ ひとりひとりの顔や声が見られたのでとても良かったし、みんな笑顔でも楽しかった。
- ・ 今学校に行けないからみんなとは話せなかったけど、こうして目を見てしっかりと話せて良かったし楽しかったです。

小学校から取組がされていたのでこういった感想が出てきた。

<二岡タイムの様子を動画で紹介>

二岡タイムではフリートークの後、自分で自分を見つめる。自分の中で新しい発見があったか、自分で考える時間をとる。内容はアドジャンや、二者択一、

	<p>「いいところみつけ」というものを行っている。 7月にアンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二岡タイムは楽しいですか？</li> <li>・ ルールや先生の指示をしっかりと聞き取ることができていますか？</li> <li>・ 相手の顔を見て話をする事ができていますか？</li> <li>・ 二岡タイムを行っていくとクラスの雰囲気良くなると思いますか？</li> </ul> <p>いずれも約90%が肯定的な意見だった。 自由記述では、以下の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなが朝から笑顔になる</li> <li>・ 楽しく相手のことが知れて面白いです</li> <li>・ 朝からやるとその後も気分が良いまま授業ができるからいい</li> <li>・ 共通の話題があるととても盛り上がるので楽しいです</li> <li>・ 友達と話せて楽しい。ずっとしたい。</li> <li>・ とても楽しい。</li> <li>・ レポートリーを増やすともっと良い。 など</li> </ul> <p>中には「やりたくないです」という子どもクラスに2、3人はいる。その子どもたちがどうしても話せない時はそっとしておいて、楽しい雰囲気を作っているの間にかその中に入っているというような雰囲気を作れたら。とても効果的だと実感しているので続けていきたい。</p>
古賀座長	<p>今の発表への質問、あるいは学校での取組の紹介があればお願いします。</p>
坂本委員	<p>託東タイムが今年で4年目となったということは、二岡中の子どもたちはすべて経験して来ているということ。それを踏まえてどのような効果を感じているか。</p>
垣田教諭	<p>私は二岡中6年目になるが、子どもたちの成長が見られている。託東タイムを継続して取り組んでいくことで自分の居場所を作っているのだと感じられるところが効果だと思う。</p>
古賀座長	<p>今日の発表で子どもたちの声を拾っているところが良かった。自分の意見を言うということは表現活動である。発表する内容を持っていないければならない。より体験を積み重ねて充実させていければと思う。 続いて事務局（指導課）からの説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局から、「第1回懇談会の確認事項」と「協議内容」の2点について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「第1回懇談会の確認事項」について。 主な内容については、「議論のまとめ」として整理しているので、PTA協議会や校長会等で内容を報道される際には、ぜひご活用いただきたい。</li> <li>● 「協議内容」について。 小中一貫校の取組の評価指標について、昨年度、小中一貫校とモデル校に調査した内容と同じ内容項目を継続して調査し、その推移を見ていきたいと考えている。11月末に関係学校にお願いしたい。 小学校一部教科担任制の取組の評価指標について、今年度は、各学校に小学校高学年の教科担任制に取り組んでいただいている。小中一貫校には、加配を利用した教科担任制に取り組んでいただいている学校もある。今年度は昨年度の調査項目をもとに、成果と課題については項目立てしてチェックして答えることができるようにしたいと考えている。</li> </ul>

	この評価指標内容（案）についてご意見をいただきたい。
古賀座長	質問があればお願いします。
西本委員	託麻東小の取組を見させていただいて、とてもすてきだと感じたが、そういう面をこの評価指標から拾えるのだろうか。
事務局	評価指標では、1番「学校に行くのは、たのしい。」7番「だれとでも、きょうりよくしてかつどうできるとおもう。」に出てくるのではないかと考える。
西本委員	小中一貫教育をしたからこそという面をこの評価指標で見ることができるのだろうか。
事務局	各学校で取組が違うので、大枠で聞いていくことしか難しいのではないかと考える。
西本委員	3～4年しないと見えてこないということだろう。
事務局	今後熊本市としてAグループからB・Cグループへ進めていくうえで、何が成果なのかということ伝えていくことが重要になる。それぞれの校区で、課題・規模・取組の内容が変わってくる。託麻東小と二岡中では乗り入れ授業はとても難しい。その中で同じような学習システムを続けていき効果を出していく。カリキュラム自体がつながっていくところにメリットがあるだろう。各校区で現状と目指す子どもたちの姿が違う。その現状と目指す姿の差が課題である。その課題を小中一貫教育でどう解消していくか。それぞれの校区でそれぞれの課題にそれぞれの取組をやってみたらこうなったというような、個別に質的な評価というのをを出していく方が、B・Cグループに広げていくときには良いかもしれない。
川上委員	託麻東小ではQ-Uを客観的評価指標としていこうとしている。託麻東小・二岡中では、人間関係をどのように高めていくかというのを主眼に置いた小中一貫教育であるので、小学校と中学校でできるだけ同じ評価指標を用いた方がよい。熊本市のアンケートとは別に行おうとしている。どこを高めていくのかというのを客観的に評価できる指標がないと難しい。
古賀座長	小中一貫教育に関するアンケートは全小中学校に実施するのか。
事務局	取り組んでいる学校へ実施することを考えている。
古賀座長	例えば、1番「学校に行くのは、たのしい。」の下にサブクエスチョンとして「どんなところがたのしいですか。」と聞いてみたり、8番「年下の子には、やさしくしようとおもう。」9番「「こんな上きゅう生（じょうきゅうせい）になりたい」とおもうことがある。」に、小中連携教育でやっていることが何か役に立っているかというようなことを聞いてみたりするのはどうだろうか。標準的なアンケート調査に加え、次に使えるような生のデータや子どもたちの声が引き出せるようなサブクエスチョンを設けてはいかがだろうか。
西本委員	9番「「こんな上きゅう生（じょうきゅうせい）になりたい」とおもうことがある。」については、5・6年生には「こんな中学生になりたい」にしては

古賀座長	<p>かがか。</p> <p>事務局で検討をお願いします。</p> <p>アンケートによって各学校の顔が見えてくるような、キーワードが引っかかってくるようなサブクエスチョンがあれば良い。そうすることで各校区の個性が見えてくるように思う。学校の評価と合わせて総合的に見ることもできると思う。</p> <p>小中連携教育を始めるときには、保護者から必ずメリットを聞かれる。こういうふうにも子どもたちが変わった、というような具体的な子どもたちの姿がわかるようになると良い。</p>
------	---

4 事務連絡

5 閉会